

「第29回 花山・湖秋まつり」

1. 趣 旨

- (1) 創作活動や体験活動を通して、親子や家族の絆を深めさせる。
- (2) 自然の家の広報活動を通して、自然の家の理解、促進を図る。
- (3) 地域のイベントに参加することを通して、地域との連携を深める。

2. 主催 第29回花山・湖秋まつり実行委員会

3. 事業の概要

- (1) 期日 平成28年10月9日（日）
- (2) 参加者
 - ①参加対象 花山・湖秋まつり参加者
 - ②参加状況 未就学児15名、小学生190名、一般（保護者等）40名 計245名

4. 企画運営のポイント

- ①本事業期間中に当所で受け入れていた実習生が一つのコーナーを担当し、企画運営を行った。実習生自身が楽しんで企画運営をすることで、来訪者が楽しめる内容になるように取り組んだ。
- ②花山湖秋まつりオリジナルデザインの缶バッジを作成して配布したり、参加者自身が缶バッジを作成するコーナーを設けて各自作ってもらったりすることで、自然の家について知ってもらう機会になるようにした。

5. 日程

- 9:00～10:00 会場準備
- 10:00～14:00 「国立花山青少年自然の家コーナー」の開設と運営
- 15:00 会場撤収

6. 主な活動内容



花山自然の家コーナー



実習生によるはなやまチャレンジランキングコーナー



自分たちで描いた絵が缶バッジに



参加者が作成した缶バッジ

7. 成果と課題

(1) 成果

- ①実習生が企画運営した「はなやまチャレンジランキングコーナー」は家族で参加する様子も見られ、身体を動かしたり、家族で笑いあったり、自然の家が出展するコーナーとして意義のあるものだった。
- ②当所で受け入れていた実習生に企画運営を任せたことで、自分たちが考えたことの反応を直に感じることができ、実習生にとっても良い機会となった。
- ③第29回花山・湖秋まつり実行委員会に職員が参加し、事前準備や事後の片づけまで職員がかかわることで、地域の方々と交流でき、地域に根差す施設としての役割を担っていると捉えられる。

(2) 課題

今年度自然の家周辺においてどんぐり等が少なく、収集が困難であったことから平成27年度に実施した木の実クラフトのコーナーを設けず、缶バッジコーナーを設けた。それに伴い、竹細工も実施しなかったことから、自然の家で提供する活動プログラムを紹介する場として、はなやまチャレンジランキングのみとなってしまう、自然の事物を用いる機会を減らしてしまった。実際木の実クラフトを楽しみにしてきた昨年度の参加者もいたため、改めて自然の事物を用いた自然の家らしいコーナー出展について検討する必要がある。

担当：企画指導専門職 島貫 織江